☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆ 輝く地域の星となれ ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

報道で見る氷上西高　2017

神戸新聞　平成２９年９月２１日（木）

プロの技、高校生体感

丹波市内の２高校で20日、フランス料理や草木染、陶芸を専門家から教わる授業があった。季節の野菜や草花の染料を使い、各校の生徒らが深まる秋の気配を感じ取りながら、旬の味や伝統文化を味わった。（岩崎昂志）

草木染の模様くっきり

氷上西高１年生

丹波布指導員 手ほどき

氷上西高校（丹波市青垣町佐治）では、地元で受け継がれる国無形文化財「丹波布」の工程に欠かせない草木染や、陶芸を体験する実習があった。

地域の伝統文化や産業に触れる総合学習の一環。１年生40人が半数に分かれ、13、20日に体験した。

草木染は同市青垣町西芦田の市立丹波布伝承館であり、指導員の蘆田久枝さん（48）が作り方を説明。生徒らは白いハンカチを思い思いの形に折り畳み、割り箸や輪ゴムでくくった後、近くで採れたコブナグサで作った染液に漬けた。

数分後にハンカチを取り出すと黄色地に白い模様が浮かび、廣内たま美さん（16）は「かわいくできた。丹波布の他の工程も体験してみたい」と話した。

一方、陶芸体験は同校であり、同市在住の陶芸家ジェイムス・イラズムスさんが指導。いずれの作品も、11月18日の同校文化祭で展示される。

コブナグサで染めたハンカチを広げる氷上西高生ら＝丹波布伝承館